

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第10期 第1年 第2回 第1日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2014(平成26)年6月22日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 23人

張 氷青、任 家林、劉 健全、王 夕心、金 スンオグ、孔 敏淑、河
相宇、ヴィラマー ジェリー、タカハシ ライゼール ラモス、牟 鳳菊、
グエン ゴク バオ リン、ヘイ ジャ フィ、仲田 シリワン、ヒラチャン
アスカ、ケゼン グア エドワード、セヌー、鈴木 イエレナ、バルトコバ
オクサナ、園田 泉 ベアトリス、河本 ファビオ 良則、シフケン
ブランドン、オルソン チャールズ、ディットマー ダニエラ

(2) 事務局

石川 しつちよう 室長、まちだ たんとく 担当課長、やぎ たんとく 担当課長、すどう かちよう 課長補佐、みやじま たんとく
係長、きたづめ しよくいん 菅原 職員、すずき しよくいん 鈴木 職員、たかはし せんもん 専門調査員

4 傍聴者 10人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、川崎市外国人市民代表者会議2014年度第2回第1日を
始める。葉さん、崔さん、ガジェンダーさんから欠席の連絡が届いている。ま

「まずは、今日の日程と配布資料の確認を事務局からお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が今日の日程と配布資料について確認。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめを事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づいて説明。)

セヌー委員長「それでは、議事に入る。まずは臨時会について事務局から説明をお願いする。」

(事務局北爪職員が資料2に基づき説明。)

セヌー委員長「何か質問はあるか。(なし)臨時会については実行委員会で話し合ったことをみなさんに提案し、決めることになる。決めることは、①臨時会をオープン会議とするかどうか、②オープン会議にする場合、メイン・プログラムをどうするか、ということだ。意見を聞きたいので何人か指名する。」

王委員「オープンにした方がよいと思う。私たちが話し合っている内容をPRできる場だし、参加者からの意見も聞ける。参加者との交流もできるのでオープンにするのがよいと思う。」

任委員「私もオープンにした方がPRしやすいと思う。PRの方法をいろいろ議論するとよいのではないか。」

ディットマー委員「私も同じ意見だ。クローズにしてしまうと通常の会議と変わらないものになってしまう。今までもオープンにしてきたそうだし、オープンにするのがよいと思う。」

セヌー委員長「それでは、決をとる。臨時会をオープン会議とすることに賛成の人は挙手を。(全員賛成)メイン・プログラムについては事務局から説明があったようにA案とB案がある。さらに、実行委員会ではC案がでた。C案は、前半はパネルディスカッションで後半はポスターを使ったディスカッションだ。ポスターについては、過去の提言を総括するようなものがよいのではないかと話になっている。何か質問はあるか。」

王委員「ポスター・ディスカッションは、何枚くらいのポスターでディスカッションをするつもりなのか。」

セヌー委員長「ポスターの枚数までは決まっていない。ほかに何かあるか。」

仲田委員「C案がよくわからない。」

セヌー委員長「提案者の劉さんに説明をしてもらいたい。」

劉委員「C案を提案した理由は、去年、私が傍聴者として参加した際、参加者から

の意見を聞く時間が足りないように感じた。もっとたくさんの質問や意見を聞くためにポスター・ディスカッションという案を提案した。ポスター・ディスカッションというのは、発表内容をポスターに簡潔にまとめ、担当者が側に立ち参加者に説明し、質問を受けたり、それに答えたりするものでより多くの人とインタラクティブなやりとりができるものだ。」

王委員「たとえば、ポスターは5枚くらいでそれぞれ担当者が3、4人というイメージか。」

劉委員「そのくらいのイメージだ。」

オルソン副委員長「パネルディスカッションでは、OBやOGを呼んで過去にどのようなことが成功し、どのようなことが失敗したかを話してもらうことで、われわれの勉強にもなるし、参加者へのPRにもなると思う。A案にある講演というかたちだと、参加者から意見を聞く時間が少ないように思う。せつかくの機会なので、たくさんの人から意見を聞きたい。」

金委員「パネルディスカッションについてだが、2時間という枠で5人ぐらい発表するとなったら、多分、時間が足りないと思うのでやり方を考える必要があると思う。」

タカハシ委員「C案にするならば、ポスターは私たちが紹介することになると思うので、それは午前中に先にした方がよいと思う。ポスターは振り返りとして使えるので、午後にパネルディスカッションをすれば参加者からいろいろな意見がもらえるのではないか。」

事務局高橋専門調査員「事務局から、2点よろしいか。1つは、今あった午前という意見について。会場予約の関係で、オープン会議は14時から17時ということになっている。もう1つは、ポスターという案について。会場が昨年と同じ中原市民館ということで、昨年は大きなスクリーンでパワーポイントを使った。また、昨年はパワーポイントの資料を印刷して配布した。というのは、やはり手元に資料があった方が理解しやすいので、意見や質問がでやすいと考えた。実際、例年に比べてたくさんの意見がいただけたのでとてもよかったと思う。ポスターという案だが、何か手元に資料が残るのかということをしんぱいしている。日本人でも耳で聞いただけではたくさんのことを覚えるのは難しい。外国人の方だと、日本語能力もさまざまなので、なおさら難しいのではないかと思う。ポスター・セッションのイメージがまだ理解できていないのだが、ポスターのかわりにスクリーンを使った発表というのはどうだろうか。」

セヌー委員長「ポスターではなくて、スクリーンでもよいかもしれない。でも、方式としてはC案でよいと思う。C案に賛成の人は挙手を。（全員賛成）パネルディスカッションなどのテーマについては、次回の会議で決める。それでは次に部会審議にうつる。まずは、事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料3-1、3-2に基づき説明。）

セヌー委員長「何か質問はあるか。（なし）前回、欠席だったオクサナさんに自分のテーマを発表してもらいたい。」

バルトコバ委員「最も話したいテーマは外国人の就職活動の支援だ。今は主婦だが数年前に専門学校を卒業した。日本人が通っているような普通の専門学校だ。自分で就職活動をしたので、川崎のハローワークへ行ったが『ごめんね、なかなか日本人のためでも仕事がないよ』という答で、正直に言ってすごく不安だった。多分、同じような不安を抱えている外国人も少なくないと思う。今は赤ちゃんがいるので仕事はできないが、将来のためにいろいろと知ったり、話したりしたい。あとは、子育てだ。」

セヌー委員長「ありがとうございます。部会審議について、今日、決めなければいけないことは2つある。1つは話し合うテーマをどのようにわけなのか。もう1つは、誰がどの部会に参加するかだ。事務局からの説明にもあったが、まずはテーマを大きく2つに分けることが重要だ。具体的な審議は、部会にわかれてからすることだ。A部会とB部会のテーマの分け方について、何か意見はあるか。前回、発言があった劉さんは。」

劉委員「私からは、A部会とB部会ということには疑問はあまりない。ただ、この2つに分けたら人数が偏る気がするので、決をとる前に様子をみるために希望を聞いてみたらよいのではないか。」

セヌー委員長「A部会とB部会の分け方について賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）では、次に誰がどの部会に参加するかを決めたい。基本的には全員が希望の部会に参加できるようにしたいが、人数のバランスをみてもしかなしたら調整することがあるかもしれない。では、A部会に参加したい人。（挙手）B部会に参加したい人。（挙手）」

事務局高橋専門調査員「A部会が11人、B部会が12人、欠席が3人なのでとくにバランスも偏ってはいないと思う。」

セヌー委員長「最後に、もう1つ決めたい。これから部会にわかれて、まずは部会長を決める。部会長が決まるまでは、進行を事務局にしておもうと思う。」

正副委員長を決めたときと同じだ。何かそれに対して質問や意見はあるか。
（なし）部会長が決まるまでの進行を事務局にお願いすることに賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）それでは、今から休憩と移動だ。
A部会はこのまま、B部会は第1会議室だ。」

【A部会】

事務局須藤課長補佐「それでは、これからA部会を始めたい。部会長と副部会長が選出されるまで進行役として議長を務めさせていただく。まずは、選出にあたって部会長と副部会長の役割と選出方法を事務局から説明する。」

（事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明。）

事務局須藤課長補佐「事務局の説明について何か質問はあるか。（なし）それでは、まず部会長の選出をしたい。立候補はいるか。（なし）では、推薦はいるか。」

園田委員「2人推薦したい。金さんと劉さん。」

河本委員「劉さん。」

バルトコバ委員「園田さんと劉さん。」

劉委員「園田さんとエドワードさん。」

事務局須藤課長補佐「ほかにはいるか。（なし）では、推薦された人は辞退することもできるが、1人ずつ意向を聞きたい。」

劉委員「みなさんの期待に沿えないと思うので、辞退させていただきたい。とてもやりたいのだが、正副委員長・部会長会議など事前の会議に出られない可能性が非常に高いので部会長としての役割をはたせないと思う。」

ケゼングア委員「私も同じく、スケジューリングを考えると役割が十分にはたせないと思うので、辞退させていただきたい。」

園田委員「私は、第9期で部会長をやったので、できれば今回はほかの方にやってもらうのが理想的だと思っている。私は副部会長としてサポートしたいと考えている。今回は辞退したい。」

金委員「まだ3歳児がいて、ちょっと個人的なことなこともある。仕事もフルタイムなので難しいかなと思っている。言いそびれてしまったのだが、ヘイさんを推薦したい。」

事務局須藤課長補佐「今、ヘイさんが推薦されたが、ヘイさんはどうか。」

ヘイ委員「部会長などをぜひやりたいと思っていたのだが、実はまだみなさんには

話していないのだがこの夏から半年ほど学校のプログラムの海外派遣をされることになった。4回か5回ほど会議に出られないことが確定してしまっているので今回は難しいと思うので辞退したい。」

事務局須藤課長補佐「全員辞退ということだが。」

劉委員「園田さんから正副委員長・部会長会議は土日でも可能だという話があったが、私は平日だと難しいがやりたい気持ちはあるので土日ならスケジュールを調整したい。事務局に土日に開催することができるのか聞きたい。」

事務局高橋専門調査員「正直な気持ちの意見だと思うので、事務局としても正直に答えたい。希望があれば、たしかに第9期のときにも正副委員長・部会長会議を土日に開催したことはある。そのうえで、まず時間についてだが、この正副委員長・部会長会議は次回の会議に向けてとても重要な話し合いをするので、時間は2時間くらいかかる。長いと3時間くらいかかることもある。そして、重要なことは、この会議は正副委員長と部会長の4人が揃っていないと意味がない。事務局が個別に対応すればよいという会議ではない。事務局としては、4人からの希望があれば土曜日や日曜日に開催したこともあるが、ほかの3人が土日は無理だということになると開催できなくなってしまう。現状だと、委員長、副委員長と会議をしたが、2回とも平日の午後だった。土日でも可能かもしれないが、やはりある程度スケジュールを調整できる人でないと難しいというのが率直なところだ。」

劉委員「正直な答えをありがとうございます。私は、平日の午後だとやはり無理だと思う。夜なら調整できるかもしれないが。」

園田委員「私は、3月、4月、5月に予定があつてスケジュールの都合があまりつかない。4月には市長への報告があるのだが、9期のときは出席できなかった。そのことが引っかかかっていて、それ以外では部会長になっても構わないと思っている。」

事務局須藤課長補佐「みなさんが同意するならば、たとえば市長報告は副部会長が代理で出席してもよいと思う。」

園田委員「副部会長に代理で出てもらえるのであれば、部会長をやっても構わないと思っている。」

事務局須藤課長補佐「それでは、みなさん辞退というなかで園田さんが引き受けてもよいと言ってくれたので、挙手で決をとりたい。園田さんが部会長で賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）」

事務局須藤課長補佐「それでは、園田さんよろしくお願ひします。つづいて、副部会長を選出したい。まずは立候補から。（なし）それでは推薦は。」

園田部会長「仲田さん、牟さんと金さん。」

金委員「オクサナさん。」

園田部会長「もう1人、劉さん。」

事務局須藤課長補佐「ほかには。（なし）では、1人ずつ意向を確認したい。」

仲田委員「下の子が年中なので難しいと思う。辞退したい。」

牟委員「娘が受験生で私も学校で学年委員をやっている忙しいので辞退したい。」

金委員「先ほど言ったように、多分、難しいので辞退したい。」

バルトコバ委員「私も、6カ月の赤ちゃんがいるので、やりたい気持ちはあるが辞退したい。」

劉委員「副部会長は、正副委員長・部会長会議には出席しないということなので、私は問題ない。積極的に受けたいと思う。」

事務局須藤課長補佐「では、劉さんが引き受けてくれるということなので、承認するかどうかを挙手してほしい。賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）それでは、副部会長は劉さんということによりお願ひします。2人から挨拶を。」

園田部会長「9期の経験を生かしながら、また新しいメンバーでがんばっていきたい。部会長はやはりみなさんの意見をまとめる役だと思ふので、みなさんでよい提言にしたい。ただ、私が1つだけ絶対に忘れてはいけないと思っているのは、みなさんは外国人市民の代表なので、この会議は自分の問題をもってくる会議ではないということだ。どうしても、みなさんが抱えている問題を間接的にもってきてしまうことはあるが、そんなときはもう一度代表者としての責任ということをおもいだしてほしい。そうすれば、会議もうまく進むと思ふ。これからよろしくお願ひします。」

劉委員「私からは積極的に園田さんをサポートしていくつもりなので、みなさんもよろしくお願ひします。ぜひみなさんで活発な議論ができればと思ふ。」

事務局須藤課長補佐「それでは、部会長と事務局で簡単な打ち合わせをさせてもらふ。みなさんは少し休憩を。私はこれで解任となる。ありがとうございます。」

(再開)

園田部会長「今回はサポート役にまわろうと思っていたのだが、みなさんサポート

をお願いします。では、最初に事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明。)

園田部会長「この部会の名称を決めなければいけないが、やはり『教育』という言葉は外せないと思う。そのうえで、『教育部会』にするのか、『教育文化部会』にするのか、『福祉教育部会』にするのか、などこれまでの例もあると思うが、みなさんの意見を聞きたい。(なし)では、3つの候補から投票で決めることにしたいがよろしいか。(異議なし)(候補を読み上げ挙手)それでは、部会の名称は『福祉教育部会』ということになった。」

劉委員「『福祉教育』でもふさわしいと思うが、『文化』ということもテーマのなかに入っているとと思うので、それも反映させられないかと思うのだが。」

園田部会長「たしかに『文化』は私たちのテーマと関わっていると思う。ただ、全部盛り込みたい気持ちは分かるが、部会の名称としては長くなりすぎても困る。『福祉教育部会』でよいだろうか。(異議なし)

では次に、今後の審議計画について話し合いたい。たくさんテーマをあげてもらったが、7つくらいのテーマに絞りたいと思っている。1人ずつ候補について発表してもらいたい。」

事務局高橋専門調査員「たくさんテーマがあるが、みなさんのなかでこれは1つのグループにできるなというイメージを教えてください。」

金委員「乳幼児、子育て中の親子への支援が1つ。それと、学齢期の子どもと保護者への支援が1つ。高齢者とそれを支える家族への支援で1つ。医療というのは全体に関係すると思う。母語、母文化、日本語についても、全部に関わってくるだろう。言葉の壁というのはどの場面でも大きいだろうし、文化の違いをふまえた支援というのも全体に関係することだと思う。」

鈴木委員「やはり学校のことと、子育て広場に関心がある。」

バルトコバ委員「乳幼児、小さな子どもの問題が大事だと思う。それと、学校と言葉の問題だ。」

牟委員「私が話したいのは、学校での異文化交流のことだ。日本の学校だとやはり外国人は珍しいので目立ってしまう。もう少し外国人の子どもがいるということを知ってもらえるとよいのではないか。もう1つ、自分の子どもが行っている学校には帰国子女の会があるのだが、そのようなかたちで先輩や知り合いがいると、不安なことを相談できたりしてよいのではないかと思う。」

河本委員「僕が話したいのは、言葉と文化。それと、年金と保険についてだ。」

ケゼンダ委員「テーマにしたいのが3つある。1つは学校の中で、日本語ができない保護者のこととか、いじめとか、保護者の会など。もう1つは、乳幼児のことや子育て広場、保育園など。それと、福祉の部分で介護や高齢者のことに関して協議したい。」

ヘイ委員「私は主に学校に関する話を話したいと考えている。テーマは、大きく4つに分けられるのではないかと思う。1つ目は、親に対してのもの。2つ目は、子どもに関すること。3つ目は、ポジティブな側面で異文化交流に関すること。4つ目に、介護、医療、保健・年金などを含めて福祉ということになるのではないかと思う。」

仲田委員「私が話したいテーマの1つ目は、子育て広場だ。子育て広場は、子育てのことだけではなく、外国人が集まって情報交換できる場所なのでとても重要だと思う。2つ目は、国際感覚を養う教育だ。子どもたちはワールドカップやオリンピックに興味があるので、外国や外国人に関する理解を深めるようなことができたらいい。3つ目は、学校の保護者会といじめの問題だ。」

劉委員「私は、子育て関係に一番プライオリティをおきたい。とくに、パパ向けの子育て環境づくりについて考えたい。それと、子どもに対する母国語の教育にも非常に興味を持っている。あとは、高齢者問題だ。」

ヒラチャン委員「私が話したいと思っているのは大きく2点で、1点目は乳幼児、小さい子どもについて、とくに保育園などについて話したい。2点目は、学校の中で、私は日本の小学校へ行っていたのだが、やはり外国人ということがいじめなどもあった。いじめや保護者の会についても話せればと思う。」

園田部会長「私は主に学校だ。残りの時間も少ないので、事務局から事務的な話をお願いする。」

事務局高橋専門調査員「本当はこの後、審議する順番について話すことになっていたが時間が押している。ひとまず、資料を用意しなければいけないので、次回のテーマだけ決める必要がある。そこで提案なのだが、乳幼児や小さな子どもの子育てというのが、今、話を聞いていて一番資料を準備するイメージがつかみやすかった。ほかのテーマだと、もう少し話を聞かないとどのような資料を用意すればよいかかわからない部分がある。もし、みなさんがよければ次回学校に入る前の子どもということで、乳幼児や小さな子どもに関する話をしてはどうだろうか。」

園田部会長「みなさん、どうだろう。反対の人はいるか。（なし）それでは、

次回のテーマは乳幼児や小さな子どもの子育てということで賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）9月以降のことは、また9月に決めることにしたい。」

事務局高橋専門調査員「それでは、資料を用意するにあたってみなさんのリクエストを聞きたい。今、具体的にアがっているのは子育て広場だと思いが、保育園や幼稚園という部分ではどのような資料が必要か。」

金委員「この間、川崎の広報紙で見たのだが、川崎区で乳幼児の子育て中の保護者向けに『さんぽみち』というのがあるのだが、その多言語版があるらしいのでぜひ見てみたい。それと、母子手帳の多言語版も。どのように渡しているのかも知りたい。」

仲田委員「外国人子育て広場は多摩区にしかないが、ほかにもないのか知りたい。」

劉委員「保育園に入るための申請の仕組みについて資料がほしい。私の知る限りだと、共働きでないと保育園に入れない。ママたちは働きたくても子どもが預けられないので、働けないという状況になっている。」

園田部会長「ほかには何かあるか。（なし）それではこれで終わりにしたい。追加で資料がほしい場合は、事務局まで連絡を。」

【B部会】

事務局町田課長「それでは、部会をはじめたい。部会長、副部会長が決まるまで仮の進行役として議長を務めさせていただく。まずは今後のスケジュールや部会長と副部会長の役割について事務局から説明をお願いします。」

（事務局北爪職員が資料4に基づき説明。）

事務局町田課長「部会長と副部会長の選出方法について質問や提案などはあるか。」

（なし）反対意見はあるか。（なし）それでは、立候補したい人や推薦したい人はいるか。」

王委員「シフケン ブランドンさんを推薦したい。」

シフケン委員「デイトマーさんを推薦したい。」

オルソン副委員長「河さんを推薦したい。」

事務局町田課長「ほかにはいないか。（なし）それでは、1人ずつ推薦を受けるかどうか確認をしたい。」

シフケン委員「私は、今回は一般の委員として参加したいので辞退したい。」

デイトマー委員「仕事もあり、進行できるかも自信がないので辞退したい。」

河委員「1年目で、内容的にもわかっていない部分もある。責任ある役職は次の機会があればやりたいと思う。」

事務局町田課長「3人とも辞退ということになったので、再度、立候補と推薦を。」

シフケン委員「ラモスさんを推薦したい。」

タカハシ委員「これから出産の予定があるので、大きな責任のある役職は残念だが受けられない。」

ヴィラマー委員「王さんを。」

王委員「仕事の関係で難しいので辞退したい。代わりに任家林さんを推薦したい。」

事務局町田課長「推薦を受けるか。」

任委員「やります。」

(拍手)

事務局町田課長「みなさん全員から拍手があったが、これで承認ということでのろしいか。(異議なし)では、部会長は任家林さんに決定した。次は副部長だ。それでは、立候補と推薦を募りたい。」

グエン委員「張さんを推薦したい。」

事務局町田課長「ほかにはいないか。(なし)それでは、張氷青さんは推薦を受けるか。」

張委員「やってみる。」

(拍手)

事務局町田課長「それでは、みなさんからの拍手をもって承認となった。ここで正副部長と事務局で簡単な打ち合わせをしたい。みなさんは少しだが休憩を。」

(再開)

任部会長「それでは、部会を再開したい。いろいろとわからないことが多いが、よろしくおねがいます。まず、事務局から説明をお願いします。」

(事務局北爪職員が資料4に基づき説明。)

任部会長「まず、部会の名前について決めたい。ただ、すぐに名前を決めた方がいいのか、テーマを振り返ってから決めた方がいいのか意見を聞きたい。」

王委員「B部会はいろいろなテーマがあるので、まずはキーワードをホワイトボードに書いて、それを組み合わせたりしてみるとよいのではないか。」

孔委員「まちづくりや社会の問題があるので、『社会地域』といったものがよいので

はないかと思う。」

任部会長「そうすると、『地域生活』と『社会生活』といった感じか。」

孔委員「そうだ。」

ディットマー委員「今までは『社会生活』だったので、新しい名前もよいのではないかと思う。提言を決めるわけではないが、まずはみなさんで優先順位の高いテーマを決めるのがよいのではないかと思う。」

任部会長「部会ではテーマを7つくらいに絞って進めていくことになる。孔さんから名前の提案があったが、今の時点で名前を決めることは難しいと思うので後に回したい。先に審議方法について決めることにしたい。事務局から説明をお願いする。」

(事務局北爪職員が資料4に基づき説明。)

任部会長「審議方法について、事務局から説明された方法以外に何かアイデアがある人はいるか。テーマに優先順位をつけて、順番に話し合うということによいか。(異議なし)」

王委員「提案だが、優先順位は一般市民にとって一番重要なことから考えるのがよいのではないか。」

孔委員「一般市民にとってというのはもちろん大事だが、自分が何を重要だと考えるかは人それぞれ違うだろう。時間も限られているので、まずはこのメンバーでいくつかのテーマに絞ってから順番を調整するのがよいのではないか。」

河委員「最後に提言をまとめることが調査審議の目標だと思う。提言というのは、審議したもののうち1件なのか2件なのか、それとも7件なのか。目安がわからないので教えてほしい。」

事務局北爪職員「提言をいくつか出すかについては、みなさんで決めることになる。ただ、話し合った内容についてすべて提言にするというのは現実的に難しい。なぜかというと、提言というのは、1回の会議で話し合ったそれだけの内容でまとめるものではなく、さらに審議を深めて、練ってという作業が必要になる。これまでの例としても、各部会から1つないしは2つ、代表者会議全体ということだと3つか4つということになっている。第9期は全体で3つだった。」

孔委員「私は、自分が何を議論したいか決まっているが、まだほかの方のテーマがわからない。まずは、みなさんの審議したいテーマを聞いてはどうか。」

任部会長「では、順番に短く自分の審議したいテーマを発表してもらえるか。」

張委員「私は情報伝達と提言への市の取り組みに対する評価だ。」

河委員「私は就労と居住といった内容について協議していきたい。」

セヌー委員長「私は外国人の経済活動の支援について話をしたい。」

グエン委員「僕は就労と経済活動、それと全体で情報伝達について議論したい。」

孔委員「私も就職支援だが、ただし介護分野に関してだ。介護分野で働きたい人の支援について話をしたい。」

シフケン委員「僕は情報伝達とともに、新しく川崎市に入ってくる外国人に対する区役所などでのサービスについてだ。」

王委員「居住支援についてだが、外国籍の人が部屋を借りるときに受ける差別をいかになくすか、ということについて話し合いたい。」

デイトとマー委員「私も居住支援とつながるが、とくに留学生やエキスパートなどの短期滞在者の支援について審議したい。」

ヴィラマー委員「私は外国人の支援、サポートについて、とくに相談窓口のことを話し合いたい。」

オルソン副委員長「私は労務環境や短期滞在の人、それから年金のことなど、とにかく働く人たちのことを支援したい。」

タカハシ委員「私はまちづくりについて、行政と市民のあいだのコミュニケーション環境づくりについて話し合いたい。」

任部会長「たくさんのテーマが出てきて、どれが何人いたのか数え切れなかったのだが、これから順番に聞くので1人2つまで話し合いたいテーマに手をあげてほしい。(候補を読み上げ挙手) だいぶ、絞りやすくなった。あとは順番だが、まずは9月のテーマだけ決めないといけない。一番人数が多かったものにしたい。経済活動、就労支援と年金でちょっと大きなテーマではあるのだが、どうだろうか。賛成の人は挙手を。(全員賛成)では、決定だ。事務局に用意してほしい資料をあげてほしい。」

セヌー委員長「経済活動の支援について、今の市の中でどういう支援制度があるのか、知りたい。私の意見ではたぶんないと思っている。」

事務局北爪職員「それは経営をしたりする人というイメージか、それとも労働者として働く人の支援というイメージなのか。」

セヌー委員長「両方含まれている。」

張委員「それは大きすぎるだろう。」

グエン委員「それは事務局に頼んでも難しいと思う。テーマが広すぎる。私がほしい情報は、川崎市で働いている外国人がどれくらいいるか。その中で、

正社員やアルバイトなどの人数や割合に関するデータがあれば、いろいろと分析したり、考えたりすることができるだろう。」

任部会長「そのようなデータはあるのか。」

事務局北爪職員「まずはデータがあるのかどうか確認する。用意できるようならば、用意する。あとは、就職支援や経営などを支援する仕組みや制度ということによいか。」

オルソン委員「川崎市に住んでいる外国人の年齢と在留資格に関する統計的なデータもあると参考にできる。」

ディットマー委員「川崎市のハローワークで外国人のための取り組みのようなものがあるのかどうか情報がほしい。」

河委員「いろいろな制度があると思うが、日本人は利用できるが外国人は利用できないものがあれば、そういったものをピックアップしてもらえるとよい。」

オルソン副委員長「全部を事務局が負担することは限界があるので、我々がいろいろと情報を手に入れてFacebookのグループなどで情報交換すればよいのではないか。」

任部会長「各自がいろいろと調べてくることも大事だと思う。」

孔委員「ネット上で議論したりするのはよいのか。」

事務局北爪職員「難しい問題だが、代表者以外に公開するかたちはやめてほしい。

また、あくまでも非公式の話し合いにとどめてほしい。」

ヴィラマー委員「概要だけならよいのか。」

事務局北爪職員「この会議の場以外で意見を交換すること自体は、別に構わない。ただ、SNSなどを使う場合に注意してほしいのは、代表者のメンバー以外の人が見られるような形にはしないということ。それと、会議以外の話し合いはあくまで非公式のものなので、そこで何かを決定したりはしないでほしい。」

任部会長「時間になったので、これで部会を終わりにする。本来は部会の名前をつけなければいけなかったが、次回に持ち越しにする。」

【全体会】

セヌー委員長「それでは、全体会を再開する。まずは、部会長のあいさつをA部会からお願いする。」

園田部会長「今期も部会長になった。9期の経験と反省を活かして第10期もがんばりたい。みなさん協力をお願いします。」

セヌー委員長「次にB部会。」

任部会長「私は初めてだが、期待をかけていただいて嬉しく思う。B部会のメンバーに限らず、いろいろなかたちで意見をいただければと思う。」

セヌー委員長「それでは、次に部会報告をA部会からお願いする。」

園田部会長「最初に部会の名称を決めたが、3つの候補があがった。『教育部会』『教育文化部会』『福祉教育部会』だ。投票の結果、前回と同じ『福祉教育部会』に決定した。その後、1人ずつ話し合いたいテーマをあげてもらい、それをグループにわけた。審議計画は次回決定するが、ひとまず次回のテーマは乳幼児と小さな子どもの子育てということになった。劉さんが副部会長になったので、一言お願いしたい。」

劉委員「しっかりと園田さんをサポートしていきたい。メンバーのみなさんよろしくをお願いします。」

セヌー委員長「A部会の人から補足はあるか。（なし）では、B部会の人から質問は。（なし）それでは、B部会の報告をお願いする。」

任部会長「B部会の部会長になった任だ。部会長は私になったが、副部会長は張氷青さんが選ばれた。張さんから何か一言挨拶を。」

張委員「重役の責任を果たせるかどうか緊張しているが、できる限り部会会長をサポートしたい。メンバーのみなさん、よろしくをお願いします。」

任部会長「まず、部会の名前は、次回に持ち越しということになった。審議の方法については、会議1回につき1つのテーマで、合計は6個ということに決まった。6つのテーマに絞り、優先順位も決めた。まずは、経済活動・就労支援と年金が次回のテーマになった。事務局には、市が行っている支援や在留資格別の人口などの統計データ、ハローワークの取り組みなどを資料としてリクエストした。それと、これは注意しなければいけないことだが、会議で利用したりした資料や情報は取扱いに気をつけてほしい。」

セヌー委員長「B部会から補足はあるか。」

孔委員「今、みなさんはFacebookなどをよく使っていると思うが、そこで会議で出た話などを載せたときに、まだ決まっていないことを決定したかのように勘違いされたり、誤解を招いたりすることもあるので気をつけてほしい。」

劉委員「事務局に質問だが、この外国人市民代表者会議で配られた資料などの扱いについて、何か規則などはあるのか。」

事務局北爪職員「会議資料は、あくまで会議の中で利用するものなので、たとえば持ち帰ってネット上にアップするといったことはやめていただきたい。この会議は公開されており、自由に傍聴ができるので、傍聴者には当日使う資料を渡している。」

セヌー委員長「A部会から質問はあるか。（なし）では、続いて行事について話したい。まずは、市民祭りについて事務局から説明をお願いする。」

（事務局北爪職員が資料5に基づき説明。）

セヌー委員長「事務局の説明に対して、何か質問はあるか。」

任部会長「市民祭りは、何か打ち合わせや事前準備、役割分担などはあるのか。」

事務局北爪職員「市民祭りの準備については、また改めて9月以降の実行委員会などで役割分担も含めて考えていただきたい。」

セヌー委員長「それでは、市民祭りの参加日について決をとりたい。11月1日と2日の2日間参加することに賛成する人は手を挙げてください。（賛成多数）次に、パレードとステージへの参加については何か意見はあるか。」

孔委員「この会議のPRになるので両方とも参加したほうがよいと思う。」

セヌー委員長「まずは、パレードへの参加について賛成する人は手を挙げてください。（全員賛成）次に、ステージへの参加について賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）それでは、市民祭りについては、2日間参加する、パレードとステージの両方に参加するということが決めた。続いて、多文化フェスタさいわいについて、事務局から説明をお願いする。」

（事務局北爪職員が資料5に基づき説明。）

セヌー委員長「事務局から説明があったように、11月はたくさんイベントがある。参加にあたっては、ある程度参加者がいないと困る。まずは、参加できる見込みの人を確認したいので、手を挙げてください。（挙手 午前7名・午後8名）では、代表者会議として参加するのかどうか決をとりたい。多文化フェスタさいわいに午前も午後も参加するということに参加する人は手を挙げてください。（賛成多数）多文化フェスタさいわいは1日通して参加するということに決めた。次に、実行委員会報告だ。ニューズレター実行委員会からお願いする。」

孔委員「みなさん、資料6をごらんください。まず、ニューズレターについて話したい。ニューズレターの目的は、私たち外国人市民代表者会議を外国人市民と日本人市民にたくさん知ってもらうこと、そして、外国人市民と日本人市民

の交流を深めるための機会とすることが目的になっている。発行は1年に3回で、今年度の予定では9月と12月と来年3月になっている。編集は、主にニューズレター実行委員会と事務局と一緒に責任を持ってやる。言語は7言語で発行している。配布先は、区役所をはじめ外国人市民情報コーナーなどいろいろなところに置いてある。市のホームページにも載っている。

実行委員会は6人だ。それから、掲載する記事の決め方と考え方だが、主に代表者会議の活動に関すること、それから発行時期に合った内容を取り入れた記事を書きたいと考えている。みなさんの中でも、もし一緒に共有したい情報などがあれば、ニューズレター編集委員会まで連絡を。それから、9月に発行される記事だが、レイアウト案にあるように1ページ目には年間のスケジュールと第10期がスタートしたことについて。2ページ目と3ページ目には、第10期代表者の紹介を載せる。4ページ目には、4月に行われた市長・市議会への第9期の報告と金スノグさんが日本の秋の味覚について、日本にいろいろな旬の食べ物があるので、おいしい記事を書いてくれることになった。」

セヌー委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、次に市民祭り実行委員会からお願いする。」

仲田委員「市民祭りだが、ステージでのパフォーマンスについてパフォーマンスをしてくれる知り合いや友達などを紹介したい人は7月27日までに事務局まで連絡をお願いします。インターナショナルフェスティバルinカワサキは、午前の集合時間は9時で、午後は1時だ。展示内容は、代表者会議のことを説明しているパネルと代表者のことを紹介するパネルを王さんが準備してくれることになった。当日は、いろいろな国の言葉でじゃんけん大会をやりたいと思う。委員長と副委員長にはメッセージを書いてほしい。写真つきでパネルにしたい。代表者のみなさんで参加したいと思うのでよろしくお願いする。」

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)これで今日の議事はすべて終わった。最後に事務局から事務局連絡をお願いします。」

事務局北爪職員「事務局連絡の前に、7月6日のインターナショナルフェスティバルの出欠を確認させてほしい。(出席予定者確認)では、事務局連絡だが、7月27日(日)の視察の行き先が決まった。川崎市ふれあい館とキングスカイフロント、教育文化会館、東海道かわさき宿交流館になった。集合時間は12時45分に市役所前、終了は夕方4時から5時ごろの予定だ。大体の

参加人数を把握したいので、今の時点で参加希望の人は手を挙げてください。

(拳手) 正式な出欠確認は改めてさせてもらおう。イベントなどの集合時間や集合場所は前日までにEメールをお送りするのでチェックを忘れないようにお願いする。」

事務局高橋専門調査員「引き続き、いくつか事務連絡をさせていただく。まず、今日、机の上に配付したチラシがある。宮前市民館自主学級『ご近所国際交流』というものだ。その第1回目に、私が川崎市の外国人市民の状況や代表者会議の話をしてほしいと頼まれている。私も説明をするが、できればやはり直接みなさんからも話をしていただくのがよいと思う。関心のある人は私に声をかけてほしい。参加については改めて確認させてもらおう。

次に、調査について話をしたい。ご存じの方もいるかと思うが、今年度、川崎市で外国人市民意識実態調査を行うことになっている。調査は川崎市在住の18歳以上の外国人市民5,000人が対象だ。5,000人は、コンピュータでランダムに選ばれる。川崎市の外国人人口が3万人弱ぐらいなので、大体5人に1人ぐらいの方にアンケートが届くことになる。今回の調査では、アンケート票をつくるにあたって、代表者会議の方にもいろいろとご協力をいただいている。とくに、アンケート票の多言語版の翻訳のネイティブチェックを代表者の方々に手伝っていただいた。現代表者だと、孔さん、園田さん、仲田さん、タカハシ・ライゼールさん、リンさん、それと第9期の呉さん、チャートさん、また、代表者ではない方にも協力していただいた。この場をかりて改めてお礼を申し上げたい。ありがとうございます。今回の調査もそうだが、みなさんには会議以外のことでもいろいろとお願いすることがあるかもしれない、できる範囲で構わないので協力してもらえればと思う。調査は6月中に発送を予定している。みなさんの中にも届く人がいると思うが、ぜひ貴重な機会なので家にアンケートが届いたら協力をお願いする。また、みなさんの周りなど、知り合いの方にも市からアンケートが届いたら協力してもらおうように声をかけてもらえると助かる。ぜひご協力をお願いします。」

事務局北爪職員「また別件だが、代表者のヘイ・ジャ・フィさんが、文部科学省のAIMESという日本を含めたアジアの国々の学生交流のプログラムに参加することになったそうだ。9月から来年の年明けくらいまで、会議を休むことになるので一言挨拶をお願いしたい。」

ヘイ委員「会議がこれから本格始動していく中で休むことになるのはすごく残念なの
だが、川崎市やこの会議を含めたPRなどもしつつ、戻ってきたら、海外派遣
の経験を生かしたいろいろな意見や提案ができればと思う」

セヌー委員長「次回の会議は、9月7日だ。7月と8月は会議はないが、
インターナショナルフェスティバルや視察がある。みなさん、ぜひ参加してく
ださい。それではこれで、2014年度第2回第1日の会議を終わりにす
る。」